

特集 傘・雨・子ども

「六月は雨量では一年の中で（東京の場合）

九月（平均191mb）に次いで二番目（平均181mb・

十月も同じ）。雨の降る日数では一番。正確に

言えば、六月中旬から七月中旬に、雨の日が多

い。六月前半は晴れて気温の上がる日が多く、

割合過ぎしやすい。」（お天気相談所）

多くの人々が自然の営みの中で作物を作って

いた頃、六月の雨は有難い雨であり、降り過ぎ

ても困る雨であった。天に祈り、知恵を巡らす

雨であり、積極的につきあう雨であった。子ども

もにとっても、同様であったろう。

傘は、いつの頃から、雨の日のものとして一

般化したのだろう。子ども達が、母親の蛇の目

傘の中から出て、自分専用の傘をさしはじめた

のはいつの頃からなのだろう。

六月の雨に、いろいろと考えてみたい。

。。。傘・雨。。。。

絵画にみる傘

——十七世紀オランダの場合——

堤 委子